





議長室から

新年を迎えました。「新しい」という言葉に目が向かう時です。

新約聖書の中にも「新しい」という言葉がしばしば出て来ますが、二つの言葉が用いられているようです。一つは時間や月日の流れのような意味の言葉です。「新しい年」という場合です。もう一つは、質的な変化を表すような言

### キリストに新しくされて

以前作家の大江健三郎

葉です。年月を重ねるとは古さを積み重ねることですが、しかし新しく変わって、新たな歩み始めることができないはず。厳密ではありませんが、聖書で重要なのは後者の方です。

「すか」と尋ねると、「これは聖書にある言葉で、そこからヒントを得ました」と答えたことに驚きました。すぐに聖書をめくり、エフエソ、そしてコロサイの信徒への手紙にある言葉であることを確認しました。

総会議長 立山忠浩

さんが、テレビ番組に出演しているのを見たことがありました。彼がテレビに生出演することは極めて珍しいことと聞きましたが、万年筆を取り出して色紙に「新しい人」と書いたのです。インタビュアーが「どういう意味で

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく創造された者である」(2コリント5・17口語訳)と言っていることに目が留まりました。自分で新しくなるのではないのです。新しい人へと、キリストによつて創造されるのです。

これはキリスト者にとつて外してはいけぬ言葉です。ある人がこの「キリストにあるならば」というのは「キリストにあるのだから」と訳すべきだと言いました。キリスト者は、いつも、どんな時も「キリストの恵みとお守りの中にあるのだから」と、このことを忘れてはいけないのです。それゆえに、キリストによつて日々新しくされて行くことを信じるのです。その後、キリストが教えてくださった平和のために、自分にできることを精一杯行えば良いのです。

の教理に関する共同宣言(邦訳2004年)が調印されました。



EWAN Fukushima Project

プロジェクト3・11

企画委員 李 明生

東教区プロジェクト3・11では、東日本大震災で被災した外国籍住民への支援を行う「Ewan Fukushima (福島移住女性支援ネットワーク)への募金も行っています。

東日本大震災で被災した移住女性達の多くは、その後も十分な情報や支

援を得ることが困難な状況に置かれ、精神的にも現実的にも孤立を余儀なくされるケースは少なくありません。そのような中、2012年2月からエキュメニカルなキリスト教諸教派・諸団体からの支援によつて、移住女性と日本人が出会い、共に生き共に生かし合う社会を一緒に作っていくことを目指して、福島県在住のフィリピン移住女性、中国移住女性たちと協働して様々なプログラムが行われてきました。

福島市と白河市での日本語サロンの継続開催の他、移動日本語サロン、シングルマザーのパーソナルサポート、移住女性の子どもの就学支援、継承語教室支援、地域サポート研修、移住女性グループへの支援などが行われています。

今年7月には白河市で福島県国際交流協会との共催で日本語ボランティアスキルアップ講座が開催され、9月には福島市国際交流協会主催の国際交流イベント「結・ゆい・フェスタ2017」に日本語サロンの参加者のひとことメッセージのブース展示と「日本語サポーター入門講座」も行われました。震災から既に6年が経

過し、被災者支援も長期的・継続的な生活支援になつていきます。そうした支援活動の中でぶつかる問題の多くは、震災以前からある外国人差別・女性差別の問題でもあります。今年3月、政府による初めての日本全国での外国人住民へのアンケート調査が発表されました。そこでは、日本人と二階に働いていると回答した外国人は74.3%、学校で一緒に勉強している人は35%であるのに対して、日本人と「友人としてつきあっている」と回答した人は全体の59.1%に留まっています。つまり40%の外

国人は日常的に日本人と接していきながらも、日本人の友人を得ていない状況にあると言えます。この日本社会主体の中で、友無き人の友となり、泣く人と共に泣き、喜ぶ人と共に喜ぶことが、今まさにわたしたちに求められているのではないのでしょうか。

EWANの活動の詳細は <http://gaikokyo.jp/shinsai/ewan/> <https://www.facebook.com/ewanfukushima/> をご覧ください。



↑第二バチカン公会議『エキュメニズムに関する教令』50周年記念の3教会合同礼拝が2014年11月に催された。

カトリック教会は、日本のカトリック教会の皆さんに宗教改革500年共同記念の意義を知らせるため、「リーフレット」カトリックと宗教改革500年(発行・カトリック中央協議会、制作・宗教改革500年記念行事準備委員会)を作成しました。編集責任を負われた光延二郎神父(イエズス会・上智大学教授)よりご提供いただき、紹介します。

カトリックと宗教改革500年(3) 教会一致運動(エキュメニズム)の進展 17〜20世紀初めまでは、ローマ・カトリックとプロテスタント諸教会は、自教派の正当性を主張し合い、互いを無視するような時代が続きました。キリスト教が超教派で対話と和解、一致を目指す「教会一致運動」は、プロテスタント諸派が1910年に開催したエジンバラ世界宣教会議から始まったといえます。プロテスタントと正教会が加わる世界教会協議会(WCC)は、この会議の精神を受け継いで、長年、教会一致運動に取り組んでいます。



↑2004年『義認の教理に関する共同宣言』日本語訳を機に、ルーテルとローマ・カトリックの合同礼拝が催された。



マルティン・ルターの投げかけに端を発し、世界のキリスト教会に分裂を引き起こすことになった宗教改革の始まりから500年。「すべての人を二つに分けてください」とのイエスの祈りを歩もうと、第二バチカン公会議を契機として始められた対話の積み重ねにより、日本福音ルーテル教会と日本カトリック司教協議会が共同で宗教改革を記念することへ導かれました。

会場として備えられたのは、長崎県のカトリック浦上教会。キリシタンへの苛烈な迫害、そして原子力爆弾による被爆に代表される様々な悲しみと苦しみを負い、そこから平和の祈りを紡いできた祈りの地。この地において、11月23日、両教会が過去の分裂と対立を乗り越え、交わりと共生の歩みを進め、祈りをささげました。

「崩れ」と表現する流れに被爆、そして第二バチカン公会議をも位置づけ、十字架のキリストの復活への道筋にあることを提示し、そこにある神による平和づくりに共に参与する意義を語りました。

「〇〇ファースト」という言い方がされるが、一部の狭いところに閉じているのではなく、考えや行動を全体に対して開いていく責任が両教会にあると指摘し、そのために福音に立ち戻る時として、この宗教改革500年という時を意識したいと語りました。また「人の住む全世界」という意味の言葉に由来するエキュメニズムが示すことを、世界に回復していく責任と可能性が私たちにあることを示しました。

ヨハネによる福音書17章と15章におけるイエスの言葉が朗読され、説教を高見三明大司教（日本カトリック司教協議会会長）と立山忠浩牧師（総会議長）が行いました。高見大司教はエキュメニズムの歴史的意義をその経過と共に後述の「共同声明」に触れて述べました。禁教と迫害として被爆の地である浦上において、両教会が分裂と争いから一致と交わりへと転換しようと努力する姿を発信することで、教会に限らず世界の平和と和解に寄与する道を歩むようにひとつの体とされている私たちは招かれていると告げました。

立山牧師は、「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び」との詩篇133編の言葉を掲げ、大きな喜びがあることを囁み締めた後、歴史的にはルターはカトリック教会への反抗者であり、宗教改革は分裂を生じさせたと思わしいことであつたことに触れられた。その後の教会が「すべての人を二つに分けてください」との主イエスの祈りを口にしなが、教会内での争いと分裂とに鈍感となつていた事実を認め、それを悲しみ

悔いることへと導かれ、今や共に集う希望へと至つたことを感謝し、ルターの「この世を動かす力は希望である」とあるように、共同記念礼拝にはこの世を動かす希望があると述べました。また、今回の日本における共同記念に用いられたシンボルマークは、恵みを受け取り、祈りを合わせる手であると共に、それで留めることなく、隣人へと開き、分かち合われていくものであり、そのことが私たちに託されていると告げました。

回心の祈りに続いて「共同声明」の分かち合いが行われました。この「共同声明」は昨年10月31日にスウェーデンのルンド大聖堂で行われたルーテル・カトリックの宗教改革共同記念礼拝においてルーテル世界連盟ユナン議長とフランシスコ教皇が署名したものであり、両教会の姿勢が表されているものです。続く共同祈願では、ドイツからのゲスト、教皇大使などが、教会の一致と世界の平和のために祈りました。讚美歌作者でもあるルターのコーラル、またエキュメニズムの背景を持つ多くの歌により賛美を共にし、参列者と全国からの祈りを込めた折り鳩も奉納され、平和への決意を確認しました。

会場として備えられたのは、長崎県のカトリック浦上教会。キリシタンへの苛烈な迫害、そして原子力爆弾による被爆に代表される様々な悲しみと苦しみを負い、そこから平和の祈りを紡いできた祈りの地。この地において、11月23日、両教会が過去の分裂と対立を乗り越え、交わりと共生の歩みを進め、祈りをささげました。

はじめに長崎の地から、橋本勲神父（カトリック中町教会主任司祭）により、「長崎からの声―苦難の歴史を踏まえて―」との講演が行われました。先日行われた教会のバザーで「免罪符」を販売すれば収益に貢献できたかもしれないとの冗談で会場をわかせた後、キリシタン迫害

講演がなされました。昨今、「〇〇ファースト」という言い方がされるが、一部の狭いところに閉じているのではなく、考えや行動を全体に対して開いていく責任が両教会にあると指摘し、そのために福音に立ち戻る時として、この宗教改革500年という時を意識したいと語りました。また「人の住む全世界」という意味の言葉に由来するエキュメニズムが示すことを、世界に回復していく責任と可能性が私たちにあることを示しました。

司会を務めた小泉基牧師（九州教区長）は、500年前に分裂を作り出した私たちは教会のみならず、様々な破れを抱える世界の全体性の回復のための役割を担うものとして遣わされていることを学んだと感想を述べました。そして本日開催に至る神学的対話の成果と共に、破れや痛みを抱える現場において共同の働きが続けられていることに触れ、現場で共に働くことにより、世界の回復が導かれるのであり、そのことへと私たちも遣わされていると結びました。

立山牧師は、「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び」との詩篇133編の言葉を掲げ、大きな喜びがあることを囁み締めた後、歴史的にはルターはカトリック教会への反抗者であり、宗教改革は分裂を生じさせたと思わしいことであつたことに触れられた。その後の教会が「すべての人を二つに分けてください」との主イエスの祈りを口にしなが、教会内での争いと分裂とに鈍感となつていた事実を認め、それを悲しみ

悔いることへと導かれ、今や共に集う希望へと至つたことを感謝し、ルターの「この世を動かす力は希望である」とあるように、共同記念礼拝にはこの世を動かす希望があると述べました。また、今回の日本における共同記念に用いられたシンボルマークは、恵みを受け取り、祈りを合わせる手であると共に、それで留めることなく、隣人へと開き、分かち合われていくものであり、そのことが私たちに託されていると告げました。

回心の祈りに続いて「共同声明」の分かち合いが行われました。この「共同声明」は昨年10月31日にスウェーデンのルンド大聖堂で行われたルーテル・カトリックの宗教改革共同記念礼拝においてルーテル世界連盟ユナン議長とフランシスコ教皇が署名したものであり、両教会の姿勢が表されているものです。続く共同祈願では、ドイツからのゲスト、教皇大使などが、教会の一致と世界の平和のために祈りました。讚美歌作者でもあるルターのコーラル、またエキュメニズムの背景を持つ多くの歌により賛美を共にし、参列者と全国からの祈りを込めた折り鳩も奉納され、平和への決意を確認しました。

平和を実現するための具体的ななすとして、広島



共同記念礼拝



シンポジウム



当日のカトリック浦上教会

# 全国教師会 退修会報告

教師会長 石居昇夫

2016年5月、日本福音ルーテル教会の全国教師会総会は、宗教改革500年に計画されたカトリック教会との共同の事業に全面的に協力して、長崎で行われる「共同記念」の礼拝に皆で参加することを決めた。

ルーテル教会とカトリック教会は、両教会にとっての事柄としてのみ「共同記念」を行うのではなく、「争いから交わりへ」と進んできた歩みを、「平和」を実現するメッセージとして現代社会へ発信するものとしていくこととなった。

キリシタン時代からのカトリック信仰の伝統のなかにある長崎で、宗教改革500年の記念をカトリック教会が日本の司教協議会レベルでこれに取り組みすることを決定された。もちろん、日本福音ルーテル教会も教会総会でこれに取り組み決議をしてきた。ただ、組織の大きさの違いもあり、私たち全国教師会は少なくとも教師全員でこれに必ず参加することで、歴史を刻む教会の取り組みとしての意義を表そうと、数年に一度開催する退修会を「共同記念」に合わせることにしたのである。

平和と歴史に対して何かを発信しようというのであれば、責任ある取り組みとしなければならぬ。そこで、退修会では「平和」について深く学び、それを表現する教会とはなにか、活動への確かな研修となるように計画しようということになった。

プログラムは11月21日から23日までの2泊3日。第1日目は、宗教改革500年の意義を深く捉えるために「ルターの原点と可能性——恩寵義認と3つのE」と題して江口再起先生の発題をいただいた。ルターの宗教改革は、神と人間との根源的関係について問い直す信仰の改革であったが、教会の枠を超えて福祉や教育など社会の構造を変えていく力を持っていた。神の恩寵的働きとそれをいただく人間の生の有り様の信仰的自覚が、互いに愛し合う人間が共生する世界実現の可能性をしめすものであることを教えられた。ルターの限界を超えて、現代のなかで神の恩寵を生きる生を新たに捉えていくことで地球規模の創造、救済、そして維持という大きな課題でのキリスト教の使命を示されたように思う。

2日目の午前は、鹿児島大学で平和学を担当されている木村朗先生をお招きし「原爆神話からの解放と核抑止論の克服」と題して講演をいただいた。戦争の早期終結など原爆を正当化する「言説」、あるいは核の平和利用という「神話」の裏に潜む、世界支配の欲望と国家的エゴの構造について改めて学ぶことができた。現代の私たちを取り囲む状況の厳しさに、それだからこそ、宗教的な取り組み特に信仰のまなざしと祈りが必要であることを学んだ。また、午後は熊本大学の教員で、平和、特に修復的正義に造詣の深い石原明子先生（本郷教会員）から「平和と和解をもたらす者となるために」というワークショップによって、日々の教会や施設における牧会的状況の中における「平和を

造り出す実践について深い学びをいただいた。日々の教会や施設のなかにも問題はたくさん起こっている。問題がないことがよいのではなく、むしろ課題が発見されてよりよい関係をつくっていくきっかけとして捉えること、そして課題の只中での人の魂の傷や痛みに寄り添う実践の必要を学ぶことができた。

退修会は、3日目に「共同記念」を共にすることで締めくくられた。礼拝を終えたあとのカトリックの司祭たちと写った、牧師たちの笑顔の写真は、今回の取り組みの大きな成果を示すものと言ってよいだろう。



ワークショップの一コマ

## 違いを豊かさに変える ルーテル・カトリック 宗教改革500年共同 記念礼拝に参加して

久保彩奈（本郷教会員）

「今日のこの礼拝の実現は決して容易ではありませんでした。またそれは違いではなく、同じところは何かに目を留める作業でした。」と告げられた言葉を重く、深く受け止めたと思います。

500年前の争いから現在に至るまでの歴史を見れば、違いと争いは明らかです。またその違いが、わたし

たちの教会のアイデンティティの大きな部分を形成した時代があったことも事実でしょう。

しかし、長崎での礼拝は人の知識と思いをはるかに超える、キリストの愛がなければ実現し得ない瞬間となりました。カトリックとルーテルの人々が自由に座り、礼拝堂は柔らかな空気で期待で満たされました。「シャローム」とシスターと握手した時の手の温もり、嬉しさと喜びで心くすぐられる思いがしました。また、降り注ぐステンドグラスの光により白いアルパを色とりどりに彩られたカトリックとルーテルの聖職者たち

の姿は、違いを豊かさに変える姿そのものでした。キリストの愛の広さ、高さ、深さはこれほどまでに、わたしたちを喜びで満たしてくださるのか、と改めて知り、実感した礼拝でした。愛すること、共に生きようとすることは容易なことではないことをわたしたちは知っています。また新たな歴史を作る歩みも平坦ではないでしょう。しかし、だからこそキリストに立ち返り、カトリックとルーテルの違いを豊かさに変える働きをこれからも続けていきたい力を与えられる礼拝でした。



カシカ大使 かなちゃん



ゲストの方々



共同記念礼拝後の司式団（一部）



祈りの折り鳩



大聖堂十字架



聖堂を埋め尽くす会衆



派遣の退堂

2017年宗教改革500年  
「カトリックとルーテルの  
共同声明」に学ぶ  
⑤-2、⑥

石居基夫  
(日本ルーテル神学校校長)



【前回の続き】

そして、この理解を基にして、リマ式文なるものが作成され、教派をこえて聖餐をとにもする礼拝を可能にしようという画期的な取り組みなのだ。現実はこの式文を用いての一致の礼拝をもつにはまだまだ課題が多いといわなければならないが、少なくともこうしたエキュメニカルな交わりと神学的な対話の大きな流れが20世紀のはじめから続いていたことが、カトリック教会の

【本文から】

●世界中のカトリックとルーテルの人々への呼び掛け

第二バチカン公会議、エキュメニズム教令に影響を与えたとはいえない、実際にカトリックとルーテルの対話もこうしたWC Cでの取り組みというところと重なっていたからこそ成果をあげることが出来たのだと言える。

従って、この声明ではこうした多くのエキュメニズムの取り組みをしてきているキリスト教世界に対する感謝を述べ、またそうした大きな教会一致への願いを祈り続けてもらえらるるに願っているわけだ。そして、この宣言だ

たしたち、カトリックとルーテルの者たちは、三位一体の神の力に心を開きましよう。キリストに根ざし、キリストを証ししてすべての人に対する神の限らない愛の信実の使者となるという定めをわたしたちは新たにするので

【学ぶ】

この声明は最後に今一度世界のカトリック教会、ルーテル教会の人々に呼びかけている。「争いから交わりへ」という一つの言葉(コンセプト)によって象徴的に現すこの両教会の歴史の取り組みが、単に一過性のお祭りに終わることのないように、それぞれの地域、社会のなかでの信仰を証し、具体的な生活や世界の課題のなかで互いに神のみこころに生きることを支え合い、「愛の真実の使者」たるべく、自らを整えていこうとよびかけるのだ。

それと可能にするのは、私たち人間の力によるのではなく、洗礼によって結び合わされた三位一体の神の力によるのだし、また私たちが生かされているキリストのいのちがこれを進めていく具体的な働きを産み出すという確信を伝えている。

コリントの信徒への手紙一の12章に語られてい



宗教改革 500年共同記念

立ち止まり感謝、  
そして前進、共に  
日本ルーテル教団関東地区との宗教改革500年合同礼拝

実行委員

木村 猛(保谷教会)

東教区では、宗教改革500年のこの機会を捉え、身近なルーテル教会として交わりのある日本ルーテル教団(NRK)関東地区と合同して企画を立てました。

11月4日の午前に、ルーテル学院大学・神学校の学園祭「愛祭」に合流させて頂き、子どもプログ

ラムと青年プログラムそして展示ブースではドイツ外務省が制作された宗教改革500年を伝えるパネルの展示を行いました。

午後は、隣接する国際基督教大学のチャペルにて両教団での合同聖餐礼拝を聖望学園・浦和ルーテル学院・ルーテル学院大学/神学校合同聖歌隊、ハンドベルクワイア

による賛美を得て行いました。礼拝の後、NRK有志が加わった東教区合同聖歌隊のバッハ作曲「我らの神は固き岩」の演奏東京バッハ・カンカータ・アンサンブルによるメンデルスゾーン交響曲「宗

教改革(今回の演奏のため室内楽に編曲されたもの)の演奏を楽しみました。神を讃える澄んだ音色・合唱は礼拝後だけに快く響きました。

合同礼拝は、両教団の教職・信徒、諸学校の生徒・保護者ら736名の参加者と共に、同じルーテル教会の流れにあり、ルター

の信仰に立ちながら、信徒レベルでは互いに顔を知らず、疎遠であった方々と一緒に礼拝でき、説教を聞き、聖餐の交わりの中で、共に「恵みのみ、信仰のみ、聖書のみ」の信条を確認できた礼拝でした。NRKとJELCの牧師がペアになったパンと

東海教区「宗教改革500年記念大会」報告

実行委員長 朝比奈晴朗  
(名古屋めぐみ教会)

この度の大会では、日本福音ルーテル教会東海教区と名古屋キリスト教協議会の主催、金城学院大学の協力という形で、300人を越える参加者が集いました。

当日は、始めに東海教区長・齋藤幸二牧師と名古屋キリスト教協議会議長・松浦剛牧師が挨拶をし、その後、カトリック名古屋教区司教・ミカエル

松浦悟郎司教から祝辞を頂きました。

基調講演は石居基夫牧師(日本ルーテル神学校校長)の「信仰によって義とされる」とは、どういうことか。これに続いて宗教改革500年記念大会宣言を行いました。

ここまですが前半で、カトリック教会とプロテスタント教会が分裂、対立する事で引き起こされた過去の悲劇への反省と、時代的な分析をふまえての共通理解、これからの自分達のスタンスを確認する内容となりました。後半は、3つのグループに分かれて自由に参加出

葡萄酒の聖餐では共にひとつの信仰に立っていることを知る事ができました。私たちクリスチャンに与えられている聖餐の恵みが形になって顕れている実感がありました。

これら一連の宗教改革500年の行事により、私たちはルター業績の光と影と現在に伝わる影響の数々を学ぶことができました。そして、すでに始まっているポスト500年の歩みに、受け取つたものを私の人生に、教会にどのように反映させてゆくかとの大きな宿題もいただく機会となりました。

来よう準備しました。①宗教改革を深々学芸会(石居基夫牧師)②パイプオルガン演奏会(大木麻理さん)③ハンドベル演奏会(金城学院大学ハンドベルクワイア)。それぞれ参加者から充実した時間を過ごすことができたとの感想を頂きました。

参加された方々がどの教会に所属しているか、一人一人の確認はしませんでした。日本福音ルーテル教会員だけでなく、プロテスタント教会諸派、カトリック教会からの参加も見受けられました。信徒レベルでは、互いに対立してきた歴史を知りつ

つも、各自はそれほどこだわりを持たず、和気あいあいと過ごしている様子も見えました。各教職は準備開始当初、やや緊張感がありましたが、大会が迫るにつれて協力の度合いが濃くなる恵みを体験しました。関わった方々の心には成し遂げた安堵感と、次の時代に召し出されていく実感を待たうと思えます。振り返れば、参加人数に物足りなさを覚えたのも事実ですが、神の言葉は教派を問わず、すべての人に与えられていることを強く感じることができました。

### 2018年度 日本福音ルーテル教会 会議日程

#### 【2018年】

- 1月10日(水) 教師試験委員会(市ヶ谷センター)
- 1月11日(木) 教師試験(市ヶ谷センター)
- 1月12日(金) 任用試験(市ヶ谷センター)
- 2月13~14日 会計監査(市ヶ谷センター)
- 2月19~21日 第27総会期第6回常議員会(市ヶ谷センター)
- 2月25日(日) 16時 神学校の夕べ(宣教百年記念東京会堂)
- 3月4日(日) 19時 教職授任按手式(宣教百年記念東京会堂)
- 3月5日(月) 神学教育委員会(市ヶ谷センター)
- 3月7日(水) 新任教師研修会(市ヶ谷センター)
- 3月9日(金) ルーテル神学校卒業式(東京三鷹)
- 3月21日(水) 教区総会(各教区)
- 4月3日(火) ルーテル神学校入学式(東京三鷹)
- 5月1~2日 全国教師会総総会(宣教百年記念東京会堂)
- 5月2~4日 第28回全国総会(宣教百年記念東京会堂)
- 未定 LCM会議
- 6月11~13日 第28総会期第1回常議員会(市ヶ谷センター)
- 8月21~22日 るうてる法人会連合・総会(関西地域)
- 9月25~26日 宣教会議(市ヶ谷センター)
- 10月2日(火) 教師試験委員会(市ヶ谷センター)
- 未定 新任教師研修会(日本キリスト教連合会主催)
- 11月5~7日 第28総会期第2回常議員会(市ヶ谷センター)

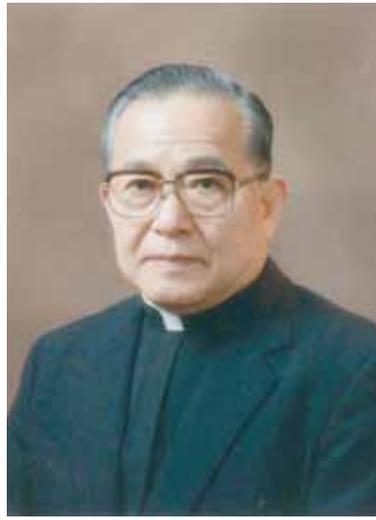
#### 【2019年】

- 1月16日(水) 教師試験委員会(市ヶ谷センター)
  - 1月17日(木) 教師試験(市ヶ谷センター)
  - 1月18日(金) 任用試験(市ヶ谷センター)
  - 2月12~13日 会計監査(市ヶ谷センター)
  - 2月18~20日 第28総会期第3回常議員会(市ヶ谷センター)
  - 2月24日(日) 神学校の夕べ(宣教百年記念東京会堂)
  - 3月3日(日) 教職授任按手式(宣教百年記念東京会堂)
  - 3月4日(月) 神学教育委員会(市ヶ谷センター)
  - 3月6日(水) 新任教師研修会(市ヶ谷センター)
  - 3月8日(金) ルーテル神学校卒業式(東京三鷹)
  - 3月21日(木) 教区総会(各教区)
- ※「事務処理委員会」は、教会規則に基づき、処理すべき事項が発生した時に、随時、開催とする。

## 追悼

### 慈父のような 藤井浩牧師

江藤直純  
(ルーテル学院大学学長)



藤井浩 牧師  
1928年3月21日生まれ 1951年12月23日受洗  
1962年按手 2017年11月17日召天

「慈父のような」慈しみ深い、藤井浩先生を思い出すとき、この表現が自然と浮かんできます。言葉表情、先生の存在そのものが、会う人にそう感じさせるのです。誰をも無条件に受け容れ、あたたかく包み込み、その人をしっかりと支える、そのような関わり方を

なされた牧師でした。しかし優しいだけではなく、強い信念を持ち、大胆な選択をなさる方でした。海軍兵学校、一橋大学、保険会社勤務の間にキリスト教に入信、受洗、献身。選ばれた神学校はアメリカのオーガスターナ神学校。日本の神学校で学んでいない稀有な方でした。最初の任は九州学院のチャプレンという若者への伝道。JELCがブラジル伝道を決断したら宣教師第1号に。ご伴侶の禮子さんと二人のお子さんを伴っての赴任は、さまざま苦労があったでしょうが、サ

ンパウロだけでなく、はるか南部であっても日系人のいる所にも赴き、福音宣教のために労を惜しまれませんでした。帰国後、田園調布と大森の二つの教会で伝道牧会と幼児教育に専念。定年後もやはり開拓的なお仕事をなさいました。ホスピスのチャプレンの務めで



札幌教会 森川利一

### カイス・ピーライネ 先生を偲んで

87年、札幌のめげえ幼稚園

と思います。亡くなる少し前まで牧会委員として三つの教会に仕え続け、生涯牧師でいらっしやいました。心から尊敬する先輩でした。

園創立50周年記念式典に長年の病を克服されてフィンランドから参列くださった。元気に式辞を述べられました。「子どもたちと一緒に生活をした時、いつも太陽が照っていた」との真に子どもを愛する言は印象深く感謝でした。1955年、園長に就任された先生は、社会の幼児教育に対する関心の高まりの中で、子どもたちの環境作り、園児の家庭との連携など多くを実践され、その成果は現在に受け継がれています。また、信仰に生きる先生は、講演やサークル活動を通して北

欧の生活文化の紹介など地域社会に貢献され、高い評価を得ました。1975年、2度の手術の後、奇跡的に回復され、翌年、退任されました。送別会では長年の交わりと働きに対する感謝と労いの言葉に笑顔で目を潤ませながら挨拶を交わされました。今年、幼稚園は創立80周年の喜びを迎えました。園舎が市の重要建造物に指定されたこと、園舎内部を耐震化したこと、園児の定数を充足していることなどをきくと先生も喜び、天国から心援してくださるでしょう。

### ジョン・デヤング宣教師を悼む

鈴木雅康(小鹿教会)



デヤングさんの静岡学生センターでの働き、ご伴侶と共に30年に渡った日本での宣教活動、特に大学生や若者にキリストとの出合いの場を提供し続けたその働きに、言葉では表せない感謝を申し上げますと共に、ご伴侶のアナマリ

さん、またご家族の皆様、神様からの慰めと平安が与えられますようお祈り申し上げます。学生センターでの語らいはいつもユーモアに溢れ、また時にはウィットに富んだ語り口、そして若者が大好きだったこと、玄人はだしの写真撮影の趣

味、沢山の思い出があります。

デヤングさんの訃報に接し、宣教師の方々が種を蒔き育てた日本のキリスト教を次の世代にどのようにつなげていくか、私たちが課せられたミッションを改めて感じています。11月に次女のリスさんがご伴侶のデイヴィッドさんと来日され、静岡にも立ち寄られました。デヤングさんはもう少しで生まれてくる初めてのひ孫の顔を見るまでは頑張るとおっしゃって、本当にこれを実現したとのことでした。

第25回 **春の全国ティーンズキャンプ**  
~We Are Christ's Two Arms.~

2018年3月27日~29日  
会場 神戸市立自然の家  
申し込み締め切り 2月18日  
<http://tng.jelcs.net/teenscamp2018/>